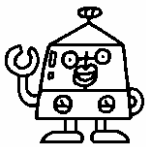


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
人と動物のたんじょう / 理解シート

イヌが出産後、子イヌをなめるのはなぜなの



赤ちゃんは羊水ようすいの中にいたので、呼吸こきゅうができるように口や鼻につまった羊水をなめとり、毛をかわかしてやるのさ。

赤ちゃんは、お母さんの体内では、羊水の入ったふくろの中にいる

お母さんの体内にいる赤ちゃんは、ふつう、へそのおでたいばんにつながり、羊水の入ったふくろの中につつまれ、守られています。

出産のときには、たいばんが子宮しきゅうのかべからはがれ、羊水に入っていた赤ちゃんといっしょに外へ出てきます。そのとき、人間のように、ふくろがやぶれて羊水が流れ出し、赤ちゃんが出てくる場合と、イヌやウシなどのように、ふくろに入ったまま出てくる場合もあります。

どちらにしても、出てきたばかりの赤ちゃんは、羊水でびっしょりぬれていて、ふくろの皮や血などがくっついていて、へそのおも、ついたままです。

出てきたばかりの赤ちゃんの世話を、イヌは歯したと舌で全部やってしまう

生まれたばかりの人間の赤ちゃんなら、まずへそのおを切り、赤ちゃんの体をふいたり、お湯であらったりします。鼻や口に残っている羊水をすいとり、すぐ空気を呼吸できるようにしてやります。

イヌの場合は、母親が、出てきた子イヌがふくろをかぶっていたらかみやぶり、へそのおをかみ切ります。そして、鼻や口の羊水をなめとり、体についたよごれや羊水を何度もなめて、きれいにふき取っているのです。こうすれば、子イヌは呼吸ができるようになり、毛はかわいてふかふかあたたかくなり、お乳を飲む元気も出てくるのです。

出てきたたいばんも、きれいに食べてしまいます。母親の栄養えいようになるし、野生動物なら、てきがにおいをかぎつけておそってくるのを防ふせげるからです。

イヌは、教えられなくても、出産で必要なことを自分でできるのね。

